

## 西播支部

西播支部「まちの保健室」活動は、兵庫県で初めての取り組みである「認知症対応型まちの保健室」のモデル事業を実施する等、最大で年間拠点 24 か所、出前隊 79 か所、ボランティア数 452 名で活動をしていました。拠点活動の利点は、誰でも気軽に看護職に健康相談・介護相談ができ、自分や家族の健康管理に「気づき」をもってもらえることです。しかし「まちの保健室」活動は対面での活動のため、新型コロナウイルス感染拡大に伴い令和 2 年からは活動を自粛しています。

令和 4 年度は、11 月 19 日に多職種を対象としたボランティア研修を開催することができ、37 名の参加がありました。看護職、介護福祉士、ケアマネジャー等多職種の参加がありました。

テーマ：認知症の方と支援者のこころをつかむケア

講師：姫路中央病院 認知症看護認定看護師 高橋 学美 氏



パーソン・センタード・ケアについて、事例を通じて具体的に考えることができたり、グループワークでは、「多職種の方の話を聞くことで、自身が気づかなかった実際の在宅での関わりや、考え方を学ぶことができ、普段の業務に生かしていけると思いました」という意見がありました。病院、施設、在宅のそれぞれの立場でのケア方法を学べる貴重な機会となりました。

「感情を伴った記憶は残りやすいということも念頭におき、本人の思いを傾聴し、情報を集めてニーズを見つけることの大切さ、生活歴を大切に、関わりを持つことを学びました」という意見もありました。



笑顔＋誉めること、  
自分で選択してもらうこと、  
ご本人の『なぜ?』を  
知ることが大事ですね!!

## 「看護の日」のイベント活動にて

令和4年5月14日 午前10時から正午まで姫路駅前において、「看護の日」のイベントを開催しました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大により3年ぶりでした。以前は各種測定（血圧、体組成、骨密度、血管年齢）による健康チェック、健康相談、栄養相談等を行い、住民の皆様と交流を深め、看護への関心や理解を深めていただくことを目的として活動していましたが、コロナ禍により、看護協会の活動内容や地域住民へ向けたリーフレットやグッズの配布を行い「看護の日」のPR活動を行いました。

足を止めて興味深く話される方もいて、「まちの保健室」活動についても知ってもらえるイベントとなりました。



## 委員の声

- 健康管理に「気づき」をもってもらえることに加え、施設で働いている若い看護職にとって「地域」を知るきっかけにもなっています。また、ボランティア活動に参加する中で人とのつながりが広がり、新しい発見もあり人として成長できたのではと思っています。

活動を自粛する中、今後も新型コロナウイルスが無くなることはないと思いますが、極端に恐れることなく感染対策を実施しながら「With コロナ」で活動を再開していきたいです。

まずは、参加者がはっきりしており、予約制で人数制限もできる出前隊から始めていけたらと思います。

- 出会いは、私が50歳代にさしかかったころ、5年ほど先輩のMさんからの誘いでした。「ここまでこの仕事続けられたのだからあとは社会連携よ」という言葉でした。もともと集中治療系の勤務が長く、退院支援や指導など病棟経験は6年ほど。しかしながらこの退院指導が私の武器となりました。看護職は、医療者側の立場で偉そうなことを言っていますが、いやいやこれは今の私にも言えること、看護職も生活体であることに気づくことができました。

西播支部の「まちの保健室」委員会はコーディネーターさんを中心に、任期が過ぎても、委員として活動に参加し、勤務する病院や施設を超えてのつながりがあり、看護学部の大学の先生と、学生さんたちとともに「まちの保健室」活動を展開し、学生さんたちの良きロールモデルとしてまた、若い学生さんたちのコミュニケーションの取り方など逆に教えていただくこともあります。

今後も地域の一員として、何かしらの健康相談にお答えできるよう暮らしていきたいと考えています。